令和８年度　健康福祉委員会資料

１　所管事務の調査（視察）

（１）消防艇について

令和８年１１月５日

消　　防　　局

（総務部　施設装備課）





船体要目		消防装置等	
全長・全幅・全深	全長33.20m　全幅8.00m　全深3.00m	消防ポンプ	25,000ℓ/min×2基
計画満載喫水	1.50m	船首甲板放水砲	15,000ℓ/min×2基（遠隔操作防爆仕様）
総トン数	109トン	羅針甲板放水砲	5,000ℓ/min×2基（遠隔操作）
航行区域	平水区域	伸縮放水砲	5,000ℓ/min×2基（遠隔操作）
主機関定格出力	1,482ｋｗ×２基	放水最大射程	120m
最大搭載人員	・1.5時間未満　合計40名 ・24時間未満　合計24名	放水口	75A-5口×2　150A-2口×2
		自衛噴霧ノズル	120ℓ/min×20基
巡行速力	16.3ノット	荷役装置	油圧伸縮型クレーン
最大速力	18.6ノット	救難艇装置	1隻（SEALVER WAVE BOAT575 PRO）
航続距離	190マイル		
推進機	ウォータージェット推進機×２基		

起工	平成 31 年 4 月 19 日
進水	令和　2 年 1 月 24 日
竣工	令和　2 年 3 月 23 日

設計監督	一般財団法人　日本造船技術センター
建　　造	ツネイシクラフト＆ファシリティーズ株式会社

大型消防艇

かわさき


前方


横方


後方

川崎市消防局

Flagship

追い風の川崎臨海部を守るフラッグシップ

消防艇「かわさき」の主な特長

- 高さ約20メートルから放水することができる伸縮放水塔を装備
- 毎分5万リットルを放水できる大型消防ポンプと放水砲を装備
- ヘリコプターとの連携活動を可能にする「緊急救助スペース」を設置
- ウォータージェット推進方式により水深の浅い海域への進入が可能
- 機関部のメンテナンススペースを大幅に確保


操舵室


救護室


待機室


隊員室


伸縮放水塔


緊急救助用スペース


ウォータージェット


機関室



放水集合管



クレーン救助艇



船体要目		消防装置等	
全長・全幅・深さ	全長18.50m　全幅4.16m　全深2.05m	消防ポンプ	16,000ℓ/min×1基
計画満載喫水	1.00m	船首甲板放水砲	3,000ℓ/min×2基（手動操作）
総トン数	19トン	羅針甲板放水砲	5,000ℓ/min×2基（遠隔操作）
航行区域	平水区域	放水最大射程	110m
主機関定格出力	720ｋｗ×２基	放水口	75A-2口×2
最大搭載人員	・1.5時間未満　合計18名 ・24時間未満　合計12名	自衛噴霧ノズル	120ℓ/min×8基
		荷役装置	油圧伸縮型クレーン
巡行速力	27.3ノット		
最大速力	30.2ノット		
推進機	ウォータージェット推進機×２基		

起工	令和２年 10月　8日
進水	令和３年　3月 25日
竣工	令和３年　4月 30日

設計監督	一般財団法人　日本造船技術センター
建　造	ツネイシクラフト＆ファシリティーズ株式会社



Fire Fighter 太助

小型消防艇

うみかぜ







川崎市消防局

Tailwind

風のように素早く急行し、川崎の海を守ります。

消防艇「うみかぜ」の主な特長

- 小型船舶ながら、毎分１万６千リットルを放水出来る消防ポンプと放水砲を装備
- 初期消火及び人命救助に効力を発揮するため、最大速力約３０ノットを実現
- ウォータージェット推進方式により浅瀬への進入が可能
- ヘリコプターからの映像を受信でき、速やかな救助活動が可能
- 省スペースかつ、メンテナンスが容易な機関室



操舵室





待機室兼船員室



羅針甲板放水砲



船首甲板放水砲





機関室



ウォータージェット



可倒式マスト

各艤装品



自衛噴霧ノズル



油圧伸縮型クレーン



放水集合管

川崎市消防艇の沿革

●昭和３７年　７月　千鳥町出張所が新築開設された。

●昭和３９年　３月　千鳥町出張所に消防艇「第１川崎丸」が配置された。



第１川崎丸（Ｓ３９～Ｓ５４）
総トン数　47.28 トン　　速力　13.5 ノット（25Km/h）
消防ポンプ３基　放水量　24,000 /min
価格　34,000 千円
双螺Ｖ型鋼製
主機関　三菱 DH24MK250 馬力　３基
放水銃　エアホーム発泡装置等

●昭和４４年　９月　千鳥町出張所に消防艇「第２川崎丸」が配置された。



第２川崎丸（Ｓ４４～Ｈ２）
総トン数　47 トン　　速力　13.9 ノット
消防ポンプ　３基　放水量　18,000 /min
価格　46,950 千円
双螺Ｖ型鋼製　２軸推進式
主機関　米国カミンズ社 VT8-300M 型　２基
放水砲　大型１基、中型４基　粉末消火装置　１基

●昭和４８年　４月　千鳥町出張所に消防艇「第３川崎丸」が配置された。



第３川崎丸（Ｓ４８～Ｈ５）
総トン数　48.6 トン　速力　17.5 ノット
消防ポンプ２基　放水量　10,000 /min（１基あたり）
価格　54,490 千円
Ｖ型高張力鋼船　３軸推進式
主機関　いすずマリン製造（株）製 V170-TMF8RD-H　２基
放水砲　大型２基

●昭和５４年　１０月　千鳥町出張所に消防艇「第４川崎丸」が配置された。
「第１川崎丸」を廃船した。



第４川崎丸（Ｓ５４～Ｈ１４）
総トン数　57.9 トン　速力　18.0 ノット
消防ポンプ　２基　放水量　11,400 /min（１基あたり）
価格　153,000 千円
高張力鋼船　可変 PP　１基、固定 PP　２基
主機関　いすずマリン製造（株）製 SMAI-TMRD　３基
放水砲　6,000 /min　２基

●平成　２年　３月　千鳥町出張所に消防艇「第５川崎丸」が配置された。
「第２川崎丸」を廃船した。



第５川崎丸（Ｈ２～Ｒ１）
総トン数　36.0 トン　速力　18.4 ノット
消防ポンプ　２基　放水量　11,000 /min（１基あたり）
価格　277,070 千円
Ｖ型耐候性高張力鋼船　３軸推進式　可変ピッチプロペラ　１基
主機関　米国 GM 社製 GM-8V92TA
Ｖ型８気筒アフタークーラー付ターボチャージャー　３基
放水砲　５基

●平成　５年　３月　千鳥町出張所に消防艇「第６川崎丸」が配置された。
「第３川崎丸」を廃船した。



第６川崎丸（Ｈ５～Ｒ３）
総トン数　39.0 トン　速力　18.0 ノット
消防ポンプ　２基　放水量　11,000 /min（１基あたり）
価格　350,200 千円
Ｖ型耐候性高張力鋼船　３軸推進式　可変ピッチプロペラ　２基
主機関　米国 GM 社製 GM-8V92TA
Ｖ型８気筒アフタークーラー付ターボチャージャー　３基
ジャイロコンパス　１基　サイドスラスター（側方推進機）

●平成１４年　４月　「第６川崎丸」と「千鳥町化学消防隊」を乗換えとし、「第５川崎丸」を予備艇とした。
「第４川崎丸」を廃船した。

●令和　元年１２月　消防艇第５川崎丸の更新艇「かわさき」の建造に伴い、「第５川崎丸」を廃船した。

●令和　２年　３月　千鳥町出張所に消防艇「かわさき」が配置された。



かわさき（Ｒ２～）
総トン数　109 トン　速力　18.6 ノット
消防ポンプ　２基　放水量　25,000 /min（１基あたり）
価格　1,338,120 千円
単胴Ｖ型耐候性高張力鋼船
主機関　MTU 製 船用高速ディーゼルエンジン 16V2000M84　２基
ウォータージェット推進機　２基
油圧伸縮型クレーン

●令和　３年　１月　消防艇第６川崎丸の更新艇「うみかぜ」の建造に伴い、第６川崎丸を廃船した。

●令和　３年　４月　千鳥町出張所に消防艇「うみかぜ」が配置された。



うみかぜ（Ｒ３～）
総トン数　19 トン　速力　30.2 ノット
消防ポンプ　２基　放水量　16,000 /min（１基あたり）
価格　380,600 千円
単胴Ｖ型船舶用耐食性アルミニウム合金製
主機関　MTU 製 船用高速ディーゼルエンジン 8V2000M72　２基
ウォータージェット推進機　２基
油圧伸縮型クレーン

令和７年度中の災害出場実績

令和７年度中の消防艇の災害出場実績は次のとおりです。

（１）消防艇かわさき

区分	内容	件数
火災	石油コンビナード等特別防災区域火災	８件
救助	水難事故（救助・検索・情報収集）	１件
警戒	危険物警戒（流出油対応等）	１件
合計		１０件

（２）消防艇うみかぜ

区分	内容	件数
火災	石油コンビナード等特別防災区域火災	１件
救助	水難事故（救助・検索・情報収集）	３件
警戒	危険物警戒（流出油対応等）	７件
合計		１１件